

令和4(2022)年度 病害虫発生予報 第9号

令和4(2022)年12月16日
栃木県農業環境指導センター

施設内の温度や湿度を適正に保ち、病害虫の発生を抑えましょう。

予想期間 12月下旬～1月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない(平年比0%：ほ場率、株率)。(－)
・ 向こう1か月の平均気温は平年並～低く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・ 発病した果実や果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・ 予防を主体に、ベルコートフロアブル(RAC コード F:M7)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性結果①、②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(平年比41%：ほ場率、平年比80%：株率)。(－)
・ 向こう1か月の平均気温は平年並～低く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 軟弱徒長すると発生しやすくなるので、温度管理やかん水を適切に行う。
・ 発生初期に、パンチョ TF 顆粒水和剤(F:U6, F:3)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
・ 曇雨天時にはくん煙剤を使用する。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比85%：ほ場率、平年比103%：株率)。(±)
・ 向こう1か月の平均気温は平年並～低く、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 天敵導入ほ場ではハダニ類の生息状況等をよく観察し、必要に応じて追加放飼を検討する。
・ 化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。厳寒期の気門封鎖剤全面散布は、天敵に対して影響があるので注意する。
・ 葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 トマト すずかび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(平年比142%：ほ場率、平年比78%：葉率)。(＋)
・ 向こう1か月の平均気温は平年並～低く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
・ 発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
・ 発生初期に、トリフミン水和剤(F:3)等を葉裏によくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [すずかび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(平年比203%：ほ場率、平年比540%：葉率)。(＋)
・ 向こう1か月の平均気温は平年並～低く、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ウイルスを媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部(出入り口、側窓、天窗)に0.4mm目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
・ 黄色粘着板の設置によりコナジラミ類が見られた時はベネビア OD(I:28)等を散布する。

- ・ ウイルス病発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
- ・ 耐病性品種であっても、ウイルス病に感染すると伝染源となるため、感受性品種と同様に適正な防除をする。

- (4) 備 考
- ・ [防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。
 - ・ タバココナジラミは黄化葉巻病 (TYLCV)・黄化病 (ToCV) を媒介し、オンシツコナジラミは黄化病 (ToCV) を媒介する。

6 なら 白斑葉枯病

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠
- ・ 現在の発生量はやや多い (平年比 177% : ほ場率、平年比 77% : 株率)。(+)
 - ・ 向こう 1 か月の平均気温は平年並～低く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策
- ・ 施設内が多湿にならないよう、日中の気温の高いときを見計らって換気を行う。
 - ・ 捨て刈りした葉は伝染源となるため、施設外に持ち出し、適切に処分する。
 - ・ 発生初期に、ストロビーフロアブル (F:11) 等を散布する。

7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
いちご	アブラムシ類	平年並	平年並	トマト	黄化葉巻病	やや少	やや少
	コナジラミ類	やや多	やや多		葉かび病	やや少	やや少
	アザミウマ類	やや多	やや多	なら	アザミウマ類	やや少	やや少
きゅうり	べと病	やや少	やや少	きく	ハダニ類	やや少	やや少
	コナジラミ類	平年並	平年並		アザミウマ類	多	多

○イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率及び越冬前密度調査結果について

- ・ ヒメトビウムカ越冬世代幼虫を対象とした調査 (11 月実施) の結果、ウムカ類幼虫の生息密度は平年よりやや少ない発生で、イネ縞葉枯ウイルスの県平均保毒虫率は 2.1% でした。
- ・ 詳細については、当センターHPに掲載中の[植物防疫ニュースNo.12](#)を御参照ください。

○外来害虫トマトキバガについて

- ・ 令和 3 (2021) 年 11 月、外来害虫の本種が国内で初確認されました。令和 4 (2022) 年 12 月現在、12 県で発生が確認されています。栃木県における発生は確認されていませんが、飛翔による分散や苗類等を介して本県での発生が懸念されます。発生が疑われる場合はお近くの農業振興事務所又は当センターまで御連絡ください。
- ・ 「[トマトキバガに注意!](#)」を当センターHPに掲載中です。

○果樹の病害虫防除対策について

- ・ 整枝・せん定作業時には、罹病枝除去に留意しましょう。

農業は適正に使用しましょう

○令和 4 年 11 月から令和 5 年 1 月まで、「栃木県農薬危害防止運動」を実施中です。

農薬は、容器のラベルをよく読んで適正に使用し、農薬の飛散 (ドリフト) にも注意しましょう。

○花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

○薬剤防除では、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

1 か月気象予報 (予報期間 12 月 17 日から 1 月 16 日 12 月 15 日気象庁発表)

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう 1 か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに 40% です。降水量、日照時間は、ほぼ平年並です。週別の気温は、1～2 週目は平年並の確率 50% です。3～4 週目は平年並または低い確率ともに確率 40% です。

向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)

項 目	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気 温	40%	40%	20%
降 水 量	40%	30%	30%
日照時間	30%	30%	40%

詳しくは農業環境指導センター (Tel 028-626-3086) までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせは、ツイッター「[栃木県農政部 \(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。

